

今回は、平成 21 年最期の再読になります。平成 16 年 9 月 13 日に開始した再読も第 260 回を迎え 6 年目を迎えております。

そこで今回は、第 1 回目の再読を振り返ってみます。

当社(株式会社ザイタック)は、「ずっと、わが家で暮らしたい」そんな気持ちを援助することを理念としています。

なぜこのような理念が生まれたのでしょうか？誰でも死ぬまで自宅で暮らしたいという気持ちをもっているわけではありませんか？介護・看護の現場で働いていると、障害を持った人を特別な人達と感じてしまいます。しかし、誰でも事故や病気で障害を持つ可能性はあります。特に 50 歳を過ぎれば脳血管障害の危険は誰にでもあります。自分に当てはめれば、「ずっと、わが家で暮らしたい」そんな気持ちが理解できませんか？

しかし、障害をもった利用者さんを在宅で支えるには、それなりの社会資本が必要です。そのために平成 12 年 4 月に設けられたのが介護保険です。当社にある訪問看護、ケアマネ、デイサービス、福祉用具貸与事業。当社以外の短期入所、訪問介護、訪問入浴といったサービスを有効に利用することで出来るだけ在宅での生活が長く送れるようにしています。ちなみに在宅の“ざいたく”からザイタックという名前がつけました。(命名者:訪問看護責任者 熊澤清美)

当時に比べると、医療法人を中心としたブレイングループになった点や、貢献・感謝・信頼を理念とした点が変わってきていますが、「ずっと、わが家で暮らしたい」という気持ちを応援する気持ちに変わりはありません。

今年は、土岐内科クリニックに、橋本貴至先生が院長として赴任いただき、外来・訪問いずれも医療レベルが向上しました。それに伴う、受付・外来看護婦さん日々の業務改善ありがとうございました。5 人の理学療法士および 1 人の作業療法士の加入は、土岐市にリハビリという“杖”を提供してくれました。脳リハビリは、長谷川の認知症専門外来を支えてくれました。外来だけでは、継続した受診はしてくれないものです。

訪問看護ステーションは当グループの源です。源のお陰で、多くの部門が生まれることができました。平成 22 年 4 月には、ステーションによるデイサービスの開始です。これにより、従来、在宅でみれなかった人たちが、最期まで在宅生活を維持できるようになるかもしれません。

介護支援センターは、常に定員ギリギリまで頑張っていたが、現在では売上・利益の部分でも他に遜色ないレベルになりました。

デイサービスでは、多治見で眼が行き届かないなか、頑張った結果を出してくれている松坂。多くの利用者さんで多忙な業務をこなしている東館・西館。半日という特殊な形態で、高い利益率を維持しているデイサービスセンター。重度と認知症という難しい二つの形態を運営している元町デイ。特に平成 22 年 4 月には、元町デイは、認知症を中心とした小規模デイに生まれ変わります。

来年以降も、地域に必要な社会資本を提供する予定です。

1 年間各部門の皆さんありがとうございました。深く、感謝します。

1 年を振り返って、何か一言お願いします。(来年への抱負でも何でも結構です)

(

)